次世代の森づくりを担う人材育成事業

05Z-01 (特非) いぶり自然学校

いぶり自然学校的森づくりリーダー育成事業

北海道苫小牧市

事業概要

地域の中高生や近隣の大学生が地域での森づくり活動に参加することを通して、森林を中心としたローカルSDGs（地域社会の持続的な発展）の中心的な担い手を育成する。主な活動は以下のとおり。①「森林整備体験事業」地域住民と共に森林整備作業を行う、森林整備の専門家の講義の開催、②「ローカルSDGsリーダーシップ研修」SDGs専門家、社会起業家講義の実施、③「森づくり手法を活用した森林内企業体験、商品開発」林産物を活用した商品開発及びマルシェへの出展。

事業成果

森のようちえんや親子森づくり体験のOBやサポーターとしての役割の強い若者層をメインターゲットとして設定することで、自主的な参加や森林の課題や循環、SDGsを自分ごととして身近な問題として捉える参加者が見受けられた。意図的に若者にアプローチしていくことで、参加者の層が多様化し、地域住民との相互的な交流が生み出された。

事業をよく知る関係者の声

・例年よりも若者が参加することで、地域の参加者だけではやりきれない力仕事がはかどった。子どもたちも喜んでいて、活気のある活動になった。こういった若者が継続的に参加してくれたり、地元で働いて一緒に活動を担っていってくれると未来への可能性を感じる。(地元参加者)

参加者の声

・地域の参加者との交流がとても印象的だった。森づくりや林業のイメージは、専門的で難しいイメージがあったが、意外と普通の人がやっていて、優しく丁寧に作業を教えてもらえて楽しかった。(札幌から参加の大学生)

樹木調査の様子（森づくり講座）

植樹（森林整備体験）

マルシェ準備（ヴィヒタ作り（サウナ用））
（地域づくり起業体験）

マルシェ出展（地域づくり起業体験）

実績とりまとめ

作業内容
植付面積：0.4ha
植付本数：10本
下刈面積：2ha
間伐面積：2.5ha
薪の生産：12回
樹液採取：１回
森林調査：１回
マルシェ：２回
勉強会：３回

参加者数
道内：344人
道外：　10人
計　：354人

樹種
アカエゾマツ、トドマツ

森林・里山ボランティア　入門講座

東京都青梅市、奥多摩町、京都府亀岡市、兵庫県宍粟市、香川県さぬき市、丸亀市、まんのう町、徳島県三好市他

事業概要

体験から一歩進んで、森林ボランティア活動に継続して関わる若き担い手を育てることを目的とする。主な活動は、東京、関西、四国３か所での18歳～40歳代を対象とした講座の実施で、それぞれ５回連続の講座を実施する。 第１回：オリエンテーション、レクチャーなど、第２回～第４回：道具の使い方、間伐など人工林の整備、雑木林 の整備、竹林整備など、第５回：振り返りなど。

事業成果

今年度は新たに35名が参加し、森林・林業・農山村について理解するとともに、森林保全活動に参加する若者を増やすことができた。

事業をよく知る関係者の声

・若い人たちといろいろな世代の人が、講座で交流することで、学びであったり、今後の活動のヒントを得られることが一番大きいと思う。（四国講座に関わるNPO関係者）

参加者の声

・講座を受講したからと言って個人では何もできないが、自分と同じように何かしたいと思っている人を誘って、山や田舎に足を運んでいろんな経験をしたい。（関西講座参加者）
・林業や野生動物管理においても、地域住民と連携した取り組みが重要であり、これからも継続的な支援と協力が求められる。（四国講座参加者）

雑木林整備（東京都青梅市）

竹林整備（京都府亀岡市）

間伐（兵庫県宍粟市）

振り返り（香川県高松市）

実績とりまとめ

作業内容
除伐面積：1.5ha
間伐面積：1.5ha

参加者数
県内：35人
計　：35人

05Z-03　（公財）Save Earth Foundation

人工林の生物多様性保全活動のモデル化

千葉県山武市

事業概要

健全な人工林の育成と人の手を加えることで生物多様性に富んだ森づくりに着目し、環境改善の方法をモデル化する。専門家を招き、林内の動植物の調査や生物保護対策を実施。また、人工林管理や山武市の銘木サンブスギの植林と保育を行った。地域内外のボランティア参加者を増やし、人工林育成の意義や、林内と溜池を観察し、生物多様性の尊さを伝え、次世代の環境保全を担う人材育成を行った。

事業成果

溜池の水生生物の避難場所として機能する水路を延長し、土壌の流出防止のための土木作業を実施。またミゾソバを溜池周辺に移植した。生物調査では、オオシオカラトンボ、カワニナ、コミズムシ、ドジョウ、ハエ目の一種、ヒメゲンゴロウ、マツモムシ、ミズムシ（甲殻類）が確認された。人工林の管理は、定期的な間伐と、広葉樹の植林を実施した結果、希少種のキンランとギンランが確認された。

事業をよく知る関係者の声

・搬出先した材が、木の駅や製材所など、活用されていることは良い。
・植生や動物の種類など、調査もちゃんとしている点もすばらしい。
・場所が分かりにくいこともあるが、市民の森にしては近隣住民にあまり知られていないことはもったいない。広報や回覧板で紹介するのも良いのでは。

参加者の声

・間伐が、こんなに大変な作業だと思わなかった。（40代会社員男性）
・日本の貴重な生き物がたくさんいて、その生き物たちの住処を守る活動ができて良かった。（40代主婦）
・生物調査や実験などは、土地所有者など許可が必要で自然観察でさえ難しいが、ここではたくさん学べるので楽しい。（東京都高校生）

水生生物調査風景

溜池で確認されたアズマヒキガエルの卵塊と幼生

サンブスギ間伐作業の様子

広葉樹の植林

実績とりまとめ

作業内容
植付面積：1ha
植付本数：175本
下刈面積：1.3ha
除伐面積：0.3ha
間伐面積：0.3ha
植樹会：１回
自然環境教育：６回

参加者数
県内：159人
県外：160人
計　：319人

樹種
ケヤキ、ガマズミ、コナラ、ムラサキシキブ、イロハモミジ

05Z-04　（特非）フジの森

木を伐り、使い、植える、未来の森づくり

東京都檜原村

事業概要

高校生・大学生が、木を伐採し、製材した材木を使って、ツリーハウスを作り、端材を薪などの燃料として使う。また伐採跡地に、無花粉の苗木を植え、森の循環を体験した。主な活動は以下のとおり。①ヒノキ、スギの伐採、②ツリーハウスを提案・施工、③伐採予定地内での道づくり、④伐採・搬出、チェーンソーによる簡易製材、製材所での製材を見学、⑤無花粉ヒノキの植樹、苗木周りの下刈りなど。

事業成果

手鋸で伐採体験を計画したが想定以上の参加があり、見学にとどめた。伐採した丸太をウインチなどの道具で土場に引き出すところを見せて説明し、搬出の難しさ、技術、安全対策の配慮などを参加者に伝えた。丸太を製材して、木材が利用可能になることも理解できたようだ。苗木も無事に活着した。森と木を知る機会を提供できたので、さらに林業や森林に携わることに関心を持つように考えたい。

事業をよく知る関係者の声

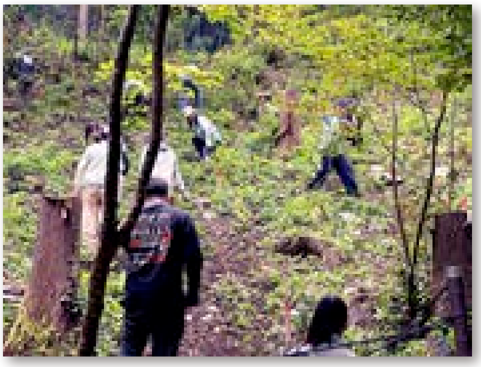
・参加した生徒たちは、苗木を植える際に草の生えた斜面で滑って立つことができないことにまず驚く。次回から長靴を持ってくる生徒もいる。道のないところに入って作業することができるのも魅力なので、このような機会をもっと増やし、自然地での対応、特にヘビやハチなどのリスク回避を身に付けさせたい。（50代教員）

参加者の声

・今、都心の気温は30℃でとても暑いが、木々や草、虫、川がある豊かな自然ではここまで涼しいのかと思った。地球温暖化から地球を守るには豊かな自然はとても重要なものなのではないか。それも含めて豊かな自然の大切さやすばらしさを広めていきたいと思う。（高校生）
・木を育てて製材することにこれだけ手間と時間と人を使っていることを改めて実感した。木材と携わってくれた方々に感謝しなければいけないなと思った。（高校生）

チェーンソーによる簡易製材を見学

無花粉ヒノキを植樹



植栽地で下刈り

ツリーハウス建設。土台部分が完成

実績とりまとめ

作業内容
植付面積：0.1ha
植付本数：80本
下刈面積：0.2ha
道づくり：100m

参加者数
都内：111人
計　：111人

樹種
無花粉ヒノキ

05Z-05　東京農業大学　里山まるごと体験学校

Cheer call ～炭焼きで里山まもっぺ!～

福島県鮫川村

事業概要

学生と地域住民、役場の方々と交流しながら、昔ながらの里山の暮らしを学び、文化継承を行うとともに、地域の活性化に取り組む。具体的には、集落内での人口減少や高齢化の問題による、伝統的な茅刈りや炭焼きの技術継承不足に焦点を当て、主に福島県鮫川村富田地区私有林、中野地区私有地をフィールド地とし、学生による伝統的な茅刈り文化や炭焼き技術の継承を目的とし、活動している。

事業成果

地域住民の方々に協力していただき、交流を行いながら、茅葺屋根に使用する茅を刈り取る作業や炭窯に使用する樹木の薪割りなどを行った。また、集落の伝統行事である西小屋という竹で組んだ小屋にお供えものを入れ燃やすという行事にも、参加させていただき、どのように昔の人がこの土地を大事にし、伝統行事を通して、集落同士の仲を深めてきたかを実際に体験することで学ぶことができた。

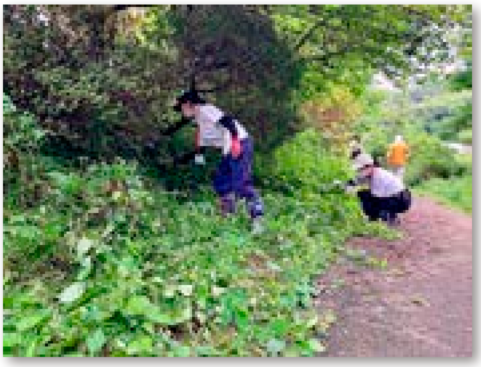
事業をよく知る関係者の声

・茅葺屋根の改修に携わることは、かつての日本の暮らしや先人の知恵を感じることのできる大変重要な体験であり、多くの学びを通した教育の現場として、大変重要な意味を持つ。建築の中でも特に独自性･専門性が高く、一朝一夕に関わることが困難なこと、また資材調達する茅場が限られているため複数年計画となることから、目的･年度目標・進歩状況など、今後も関わる学生間での情報共有が課題と考える。（役場職員・男性）

参加者の声

・茅葺屋根を１枚建て替えるのに、これだけの量の茅が必要なのかと純粋に驚いた。（20代男性）
・茅を太く束ねてしまい、全て束ね直しになり、大変苦労した。しかし、それらも昔ながらの伝統的な継承がなければ、廃れてしまう技術であり、教えていただいたことに感謝をしなければならないと感じた。（20代女性）

作業工程説明（鮫川村中野地区）


草刈り作業（鮫川村中野地区）

製炭方法についての説明（鮫川村渡瀬地区）

生産された炭（鮫川村渡瀬地区）

実績とりまとめ

作業内容
下刈面積：1ha
（チガヤ、スゲ、ススキ）
炭焼き見学：１回
伝統的行事参加：１回

参加者数
県内：　8人
県外：61人
計　：69人

05Z-06 （特非）よこはま里山研究所

都市の里山資源の活用推進事業

神奈川県横浜市

事業概要

都市の里山保全活動で産出する間伐材や伐木材を有効活用することで、持続的な里山保全及びその活動を推進する。主な活動は次のとおり。①間伐材などの生木を活用したグリーンウッドワーク（GWW）ワークショップの定例開催、②経験者や講師の技術向上を目指したGWW 研修会の開催、③活用を意識した樹林地整備・里山保全活動の定例活動の実施。

事業成果

里山保全活動で産出する里山資源活用の検討を開始し、グリーンウッドワーク（生木で木工）の活用技術の取得、この技術を生かした講習会の開催準備（道具の整備、講習方法の習得）、ワークショップ参加者により指導者要請を行い自立的活動の準備が整った。

GWW ワークショップのプログラムの整備・定例化により、自立的活動を開始することができた。

事業をよく知る関係者の声

・今年度は年間を通したプログラムに沿って、計画的に活動を行うことができた。一方で集客状況があまりよくなかったので、グリーンウッドワークのネットワークを活用した集客を進めていきたい。（講師）

・東京周辺でグリーンウッドワークを定例開催している場所が限られているので、NORA（（特非）よこはま里山研究所）が継続して会場を提供することには大きな意味がある。（会員、GWW 経験者）

参加者の声

・楽しい体験ができた。本で見たのと実際に行うのは違う。勉強になった。（ワークショップ初参加者）

・四角い材料を丸く削るのが楽しかった。（ワークショップ参加者）

・森の中で、カトラリー作りに集中することでリフレッシュできた。（団体メンバー参加者）

ワークショップ風景。削り馬で材料を固定し、ニマ風器作り

材から削り出して作った木べら

定例会の森林整備・伐木

観察会

実績とりまとめ

作業内容
下刈面積：5.4ha
除伐面積：5.4ha
間伐面積：5.4ha
植林地整備・里山保全活動：20回
グリーンウッドワークワークショップ：７回
グリーンウッドワーク研修会：２回

参加者数
計　：400人

05Z-07　（特非）NICE日本国際ワークキャンプセンター

グローカル環境リーダー育成ワークキャンプ

青森県鰺ヶ沢町、栃木県益子町、石川県小松市、静岡県掛川市、三重県名張市、大阪府富田林市、島根県美郷町、熊本県水俣市

事業概要

森林保全活動を通じて、国内外の若者と地域住民をつなぎ、森林保全への意識と行動をともに高め、グローカルな交流や連携を生むことが目的である。主な活動は以下のとおり。①全国８県8か所で、間伐・下刈り・歩道作り・植樹などの森林保全ワークキャンプ（合宿型ボランティア活動）の実施。②リーダー訓練合宿に合わせ、成果報告会や事業のプロモーションイベントを８回開催（東京４回、愛知２回、大阪２回）。本事業を実施することで、次世代の環境リーダーが育成され、国内外の若者が森林問題に取り組むモデルとして全国各地に広がり、また参加したボランティアや住民が保全活動の新たな担い手として活動を発展していくことも期待している。

事業成果

前年度後半から外国人の来日もできるようになり、海外の若者が日本の森林問題の現状を知り、課題に取り組むことができるようになった。一緒に活動する日本人、受入側の地域としても、国際色豊かな交流ができ、三方良しの活動となった。

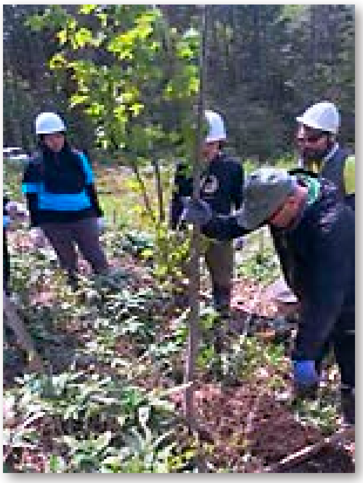
事業をよく知る関係者の声

・久しぶりに外国人参加者と活動ができた。コロナで内向き志向な人が増えたと感じているが、わざわざ日本にやってきて、ボランティアをしてくれるのは本当にありがたいしうれしい。（赤目受入団体）

・まとまった人数の若者が活動してくれると作業が進む。とても助かる。（都賀GR受入団体）

参加者の声

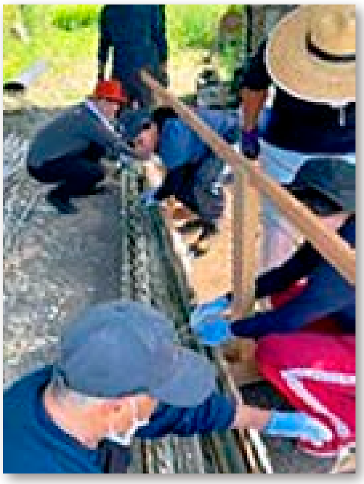
・森の中で汗を流し、誰かの役に立ったという実感、みんなで協力して生活したことなど、ワークキャンプ中の経験が、高校生たちにとって、かけがえのない思い出の一つとなり、成長の機会となり、より良い未来へつながっていくとよいと思う。（栃木youth参加者）



植樹祭の準備（青森県鰺ヶ沢町）

竹林の整備（栃木県益子町）

雑木伐採やつる切り（石川県小松市）



放置竹林を伐採し、そのタケを使って「簗漁（やなりょう）」の簗（やな）作り（島根県美郷町）

実績とりまとめ

作業内容
植付面積：0.5ha
植付本数：150本
下刈面積：2.7ha
除伐面積：2.3ha
間伐面積：2.5ha

参加者数
県内：　3人
県外：　98人
計　：101人

樹種
ブナ、イタヤカエデ、ミズナラ

05Z-08 書と生き物愛好会　愛知支部

間伐材を利用した書道における固形墨の開発

愛知県西尾市

事業概要

全国的に広がる放置竹林問題を解決しつつ、SDGsの視座から芸術科書道で扱う固形墨を開発し、新たな環境教育・書道教育について考える。主な活動は以下のとおり。①SDGsカードゲームの実施、②放置竹林問題を学ぶ、③タケの伐採方法を学ぶ、④タケの伐採活動（２回）、⑤竹炭作り、⑥固形墨作りを墨匠から学ぶ、⑦SDGs墨作り、⑧墨の比較分析、⑨SDGs墨の紹介と竹炭頒布会の開催。

事業成果

１年を通して放置竹林問題に向き合えたことが大きな成果である。若い世代（高校生）に授業の一環としてアプローチし、理解を深めてもらうことができた。また、本活動で岡崎森林組合、西尾市産業振興課、奈良県の墨匠とのネットワークができ、継続的な活動も可能となった。次年度は間伐材の固形墨化の精度を上げて製品化し、学校教育の中で扱えるようにするなどして地域貢献までつなげたい。

事業をよく知る関係者の声

・書道に関する用具・用材についての研究で、これから墨のあり方への視座として大変興味深い。（大学教員）
・高校生が自分の環境について考えたり、森林環境税の使われ方などにも目を向けるよい機会だったように思う。竹炭頒布会を今後も実施してほしい。（市役所職員）
・若い世代が森林問題について目を向けられるように連携できたらと思う。（森林組合）

参加者の声

・自分たちでタケを切って、竹炭を作り、それが固形墨になるとは思わなかった。またやってみたい。（高校生）
・細粉した粉が真っ黒で手が汚れたのと、膠が臭かったからなかなか扱いに苦労して少し嫌だった。（高校生）
・竹炭を配ったり、墨を市役所で紹介するなど、学校で体験できないようなこともたくさんでき、自分たちの地域の問題に本気で向き合えたから充実していた。（高校生）

市役所の方から放置竹林問題について学ぶ

タケの伐採方法を学び、実践

伐採したタケを焼成

地域でのSDGs墨の紹介と竹炭頒布会の開催

実績とりまとめ

作業内容
間伐面積：0.032ha
竹炭焼成

参加者数
県内：48人
計　：48人

05Z-09 京都府立大学　森林ボランティアサークル 森なかま

大学生による森林・竹林整備

京都府京都市、南丹市、京田辺市、宇治田原町

事業概要

森づくりから木工品、炭作りまでの木質資源の循環利用を普及させ、日本一森林に関心を持つ学生が多い大学にすることを目指す。主な活動は以下のとおり。①演習林で森林整備を実施、②三山木・宇治田原において、不良竹の伐採と搬出、③伐採した間伐木や竹材を利用して木工作品を作成し、炭焼きやバウムクーヘン作りなど資源の循環を図り、森の市やSNSを通じてPRする。

事業成果

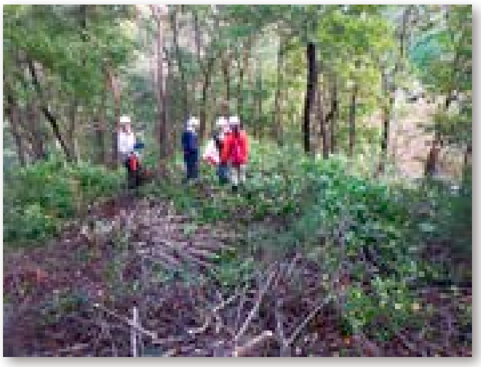
演習林では下刈りによりツタ類を除去した。また異常繁殖したソヨゴやヒサカキを除伐することでアカマツ稚樹などの健全な育成に貢献できた。また、間伐や枝打ちで林内環境を適切に整えた。三山木ならびに宇治田では竹林の整備を行い、伐採した竹を有効に利用した。コロナ禍が明け、新入生勧誘を進めたこともあってか参加者が増え、活動が活発化した。これらの成果を踏まえて活動を継続したい。

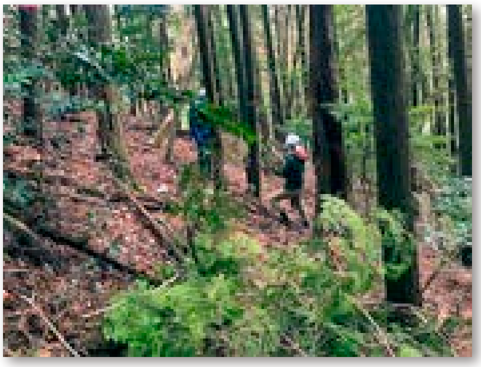
事業をよく知る関係者の声

・今年度は活動が活発となり森林整備や木材・炭の利用などを学生の皆さんにはより身近に感じてもらえたと思う。一方、学生活動の弱点でもあるが、世代間での引継ぎが上手くいかないと活動が継続されないことがあるので、次世代の人材育成に尽力してもらいたい。（演習林職員）

参加者の声

・枝打ちはステップを使って木に登るのが最初は怖かったが、慣れれば楽しかった。つい枝を切りすぎてしまい、適切な状態にするのが難しかった。（参加者、３回生）
・間伐では、皆で協力して樹木を切り倒すことに達成感を感じた。活動場所は傾斜がきつかったが、活動に参加するにつれて比較的スムーズに登れるようになった。（参加者、２回生）


除伐作業（大枝演習林）


間伐作業（大枝演習林）

枝打ち合宿（大野演習林）

三山木での竹林整備

実績とりまとめ

作業内容
下刈面積：0.4ha
除伐面積：0.4ha
間伐面積：0.2ha
その他：炭焼き合宿、希少種調査、資材の運搬

参加者数
府内：197人
計　：197人

05Z-10 大阪能勢田尻菊炭振興協議会

次世代と共につくる里山と菊炭の未来 2023

大阪府能勢町、池田市

事業概要

日本の茶の湯文化だけでなく里山保全においても重要な地域固有の製炭業（菊炭）が放置林や獣害で衰退している。この課題解決に次世代と共に取り組む。地元及び近隣の高校生の参加を働きかけ、菊炭窯の見学や里山見学会、里山管理作業体験などを実施。里山学習に意欲的な近隣市小学校への里山出前講座やオンライン授業の実施。安全な里山管理作業のために女性を対象とした機材の取扱講習会を実施。

事業成果

里山活動に関心のある近隣市の小学校の若手教師が中心となり、6小学校4年生約500人を対象に「菊炭と里山づくり」のテーマでオンライン授業を開催。更に児童が植樹会にも参加した。高校生は植樹活動で山林活動の実際を学んだ。植樹会には若手の茶道関係者が自ら参加者を募り、多数参加。また里山作業安全講習会を農林業で活動を広げる女性を対象に開催。講習会の必要性を改めて認識した。

事業をよく知る関係者の声

・植樹会と植樹地のその後の管理も含めて参加者に声をかけていくことが大切だと思う。（森林ボランティア）
・高校生にとって自分たちの住んでいる里山の状況を知り、植樹を体験できたことは海外の森林環境の状況を学ぶ上での大きな土台となるだろう。（地元高校教師）
・子どもたちに里山の保全や文化としての菊炭を知ってほしかった。授業から実際の体験につながったことは本当にうれしい。今後もつないでいきたい。（小学校教師）

参加者の声

・子どもが授業で関心を持ち、植樹に参加した。刺激的な体験だった。授業がなければ菊炭の存在にも気づくことがなかったのでとても良かった。（植樹会参加の保護者）
・刈払機を使う女性も増えているが、我流で行っている。今回の授業は講義だけでなく実践の時間も多く、参加できて良かった。（女性のための刈払機講習会参加者）

近隣市小学校社会科教員見学会受入れ（菊炭と原木クヌギ植樹地学習

近隣市小学校6校児童教師500名を結ぶオンライン授業（菊炭と里山づくり）

菊炭と里山を未来につなぐ植樹会参加者（菊炭学習と植樹体験）

女性のための里山安全作業講習会（刈払い機講習会）

実績とりまとめ

作業内容
植付面積：0.2ha
植付本数：200本
除伐面積：0.4ha
木工クラフト：21回
その他体験イベント：７回

参加者数
府内：881人
府外：　7人
計　：888人

05Z-11 NEXT二色の浜

里山活性化と次世代リーダー育成事業

大阪府貝塚市

事業概要

次世代を担う学生（近畿大学ゼミ生、大阪ECO動物海洋専門学校１、２年生）が、活動を通じて里山に関心を持ち、課題を認識して、森づくりのリーダーとなるように取り組む。主な活動は、休耕田でのウバメガシ苗木植栽、浜辺で海藻を集めて苗木の肥料として活用。除間伐体験活動も地元住民やボランティアと一緒に実施する。除間伐した空間には、育てた苗木を植栽し、複層林化を目指す。

事業成果

学生たちにとっては、のこぎりで木を切ったり、丸太でコースターをつくったり、また鎌で草刈りをしたり、里山での活動は貴重な体験になった。近畿大学ゼミ生は、間伐などで作業を協力しながら実施した今回の活動を通じて、ゼミが一つにまとまった。大阪ECO動物海洋専門学校は、１泊２日で、自然観察活動も実施した。サンコウチョウなど野鳥の声を聞いたり、里山ならではの体験となった。

事業をよく知る関係者の声

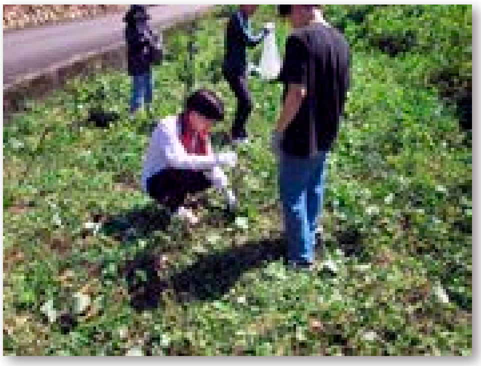
・海からスタートする新たな試みである。他の地域では苗木がすぐに全滅というケースもある。今回、上手く成功している。休耕田の苗木は、すぐに森林へ移植するのもいいだろう。海藻の肥料効果はゆっくりでると思われる。（指導者：京都大学、大阪大学などの学識経験者）

参加者の声

・森林と海とつながっていることを実感した。木を伐採するのは大変で、森林管理の大切さを学んだ。間伐や草刈りなど普段の生活ではできないことをさせてもらえた。海藻アオサの課題をはじめ里山が直面している問題を知る貴重な機会となった。イベントがあればボランティア協力する（大阪・関西万博事前イベント参加者）

アオサ回収

アオサをよく水洗いして山で苗木の肥料に利用


苗木植栽、下草刈り

間伐作業

実績とりまとめ

作業内容
植付面積：0.08ha
植付本数：45本
下刈面積：0.08ha
間伐面積：0.02ha
森林資源活用：５本

参加者数
府内：121人
計　：121人

樹種
ウバメガシ

05Z-12　鳥取県立智頭農林高等学校森のしずくクラブ

緑をとりもどせ！土砂崩壊防止をめざして

鳥取県智頭町

事業概要

多雪により、ススキの植生のみとなっていた学校林内の山腹斜面が、シカの食害を受けて裸地となってしまい、その結果、豪雨時に土砂崩壊を起こすため、山腹緑化を試みる。主な活動は以下のとおり。①高校生の支援の元、シカの忌避樹木の苗を地元小学生が山腹斜面に植樹、②シカの食害防止のために２m四方のプロット状にスチール製の防護柵で囲う、③小学生に対して植樹の必要性を教授する。

事業成果

総合的な学習の時間に林業をテーマとして学ぶ小学生に対して、植樹の必要性を教授し、経済林育成とは異なる広葉樹の植樹を体験してもらえたことは、森林の持つ公益的機能を理解する上で有意義であった。

事業をよく知る関係者の声

・これまで財産区などで地元の方からの指導を受けた学習を続けてきた。新しく高校生との植樹体験は、経済林の育成とは違った視点での体験となり、森林教室や質疑応答などの時間を設けたことは、地元の基幹産業である林業を担っていく若者の考えを知ることができたことと併せて、小学生にとって有意義であった。（小学校引率教諭）

参加者の声

・初めて木を植えてどんな感じに育つのか楽しみで何年も待てないかもしれない。私は自然のことで人が手を加えない方がいいと思っていたけど、人の手を加えた方がよりきれいで美しい林になることを知った。特に印象に残ったのは木や山があることで水があふれないようになっていることがすごかった。

高校生に教えてもらいながら小学生が植栽

シカが食べたがらない木を植栽

植栽風景遠景

森林教室風景

実績とりまとめ

作業内容
植付面積：0.2ha
植付本数：50本
森林教室：１回
防護柵設置：１回

参加者数
県内：48人
計　：48人

樹種
オオバアサガラ、エゴノキ、ネジキ、ウリハダカエデ、ゴマギほか

05Z-13 こうち森林救援隊

森づくりを目指す若きリーダー養成事業

鳥取県智頭町、高知県高知市、南国市、香南市、四万十市ほか

事業概要

大学生を中心とした森づくりに関心を持つ若者が森林や里山の保全活動などへの参加を通じて、将来の森づくりを担うリーダーとして育つことを目指す。主な活動は次のとおり。①人工林の除間伐や里山、竹林の整備作業の実践研修、県内外の森づくりや地域づくりの取り組み事例の視察・体験研修などを実施、②他団体や民間企業と連携してツリーハウスづくりや里山整備の実践活動などを実施。

事業成果

大学生に加えて、新たに各市町村の地域おこし協力隊及びその卒業生も研修事業に参加し、地域振興の視点も入れた多角的で高次な研修となった。土日の定例会研修の他に、会の平日作業への自主参加も増加し、より実践的な研修ができた。さらに、県内外の森づくりや地域づくりに携わる団体、個人との意見交換や情報共有を通じてネットワークが拡大。新たな民間企業とのつながりも拡充できた。

事業をよく知る関係者の声

・この研修事業を通じて若い方々に数多く参加、応援をいただき大変感謝。継続して関わっていただけることを期待している。（他ボランティア活動団体代表者）
・研修内容の多様性や充実ぶりは高く評価している。研修生にとっては仲間同士のつながりは大切なことでありネットワークの広がりは重要。この研修事業を通じて築いたつながりを大切にして頑張ってほしい。（行政関係者）

参加者の声

・チェーンソーなどを使った森林整備作業の実践や子どもたちの遊び場、癒しの空間としての森の活用といった視点など、大学の授業では得られない貴重な体験となった。
・楽しい学びの中に毎回新たな気づきや発見があって大変有意義な研修だった。
・様々な人や団体とのつながりと視野が広がり、「林業＋α分野」の展開を考えるうえでの参考になった。

人工林の除間伐作業研修

竹林整備

合宿研修

森のようちえん

実績とりまとめ

作業内容
〈主な研修内容〉
養成講座の開催：14講座
（開催日数43日）
人工林の除間伐作業：８日
里山整備作業：９日
竹林整備作業：２日
ツリーハウスづくり、
森のようちえん：13日
合宿研修：４回

参加者数
県内：204人
計　：204人